

令和元年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

第3学年

教科	指導上の成果と課題の分析	授業改善の具体的な方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の達成率は、84%であった。話すことに対して、メモや項目をもとに話すことができる児童は多い。しかし、大事なことをメモしながら聞くこと、相手のことを踏まえたり、目的を意識したりして、適切に表現することについて、課題がある。 【話すこと・聞くこと】 ・書くことの内容を明確にし、段落相互の関係に注意して、文を書くことに課題がある。 【書くこと】 ・1学期の達成率は、86%であった。単に読むだけでなく、叙述内容から場面や登場人物の様子について、考えながら読むことについては課題がある。また、読書への意欲は高いものの、読書量については個人差がある。 【読むこと】 ・1学期の達成率は、74%であった。漢字の学習については、書き順や部首などに気を付け、学習を進めていく必要がある。また、反復練習を行うことにより、言語事項についての定着を図っていく必要がある。 【言語事項】 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業だけでなく、友達や教師の話を書く場面には、目的意識をもって話を聞くこと、内容に注意しながら聞くこと、必要な事柄をメモしながら聞くことを指導する。話型を提示し、スピーチをする場を設定し、友達の前で発表する活動を取り入れる。 ・文章構成図を活用し、自分が伝えたい内容を整理し伝える活動を取り入れる。また、互いの書いた文章の良さを伝え合う活動をすることで、表現する意欲を養っていく。 ・叙述内容について表を使って分かりやすく場面ごとに整理したり、登場人物に関する発問をより様子や心情など読み取れるよう工夫したりして、児童が考えながら読めるよう支援していく。読書については、様々なジャンルの本を紹介したり、ブックトークなどの読書の成果を伝え合ったりする場を設定して、関心・意欲が持続するように支援していく。 ・漢字の定着を図るため、定期的に小テストを行ったり、ドリル学習を計画的に行ったりしていく。また、言葉のきまりや新出漢字の短文作りの学習で国語辞典の活用を促して、語彙や表現の仕方を豊かにしていくための活動を設定する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の達成率は、66%であった。地域による特色の違いや、特色そのものについて、調べて分かったことを用いて表現することに課題がある。 【思考・判断・表現】 ・1学期の達成率は、76%であった。様々な場所の特徴についての資料の読み取りについては課題がある。 【技能】 ・1学期の達成率は、81%であった。分かったことと社会科の用語を結び付けたり、地図記号を正しく理解したりすることについては、課題がある。 【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実から考えたことの見聞交流や、自分の考えを書いて発表し合う学習を毎回の授業の中で効果的に取り入れていく。互いの考えを共有し、それぞれの良さについて伝え合うことで、自分の表現に生かせるようにしていく。また、まとめ方や表現例を提示し、表現方法について学び、見通しをもってまとめられるように支援する。 ・資料の内容をしっかりと読み取れるように、自分たちの地域の資料だけでなく、他地域の資料を用いて資料の読み取りをする活動に繰り返し取り組んでいく。 ・社会科の用語を授業内でより多く活用し、地図の見方や建物や土地の活用の仕方について、白地図を活用しながら定着を図る。また、ICT機器を活用して地図や写真などの視覚的な資料を提示し、地図上の位置関係を理解しやすくする。

算 数	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の達成率は、92%であった。問題を正確に読み取り、考えを式で表し、答えを求めることができるものの、その式の意味についての説明をすることについては課題がある。 【数学的な考え方】 ・1学期の達成率は、93%であった。時刻と時間の学習では、ある時刻から時間を足し引きして始めと終わりの時刻を求めたり、時間を求めたりする問題に課題がある。 【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面を図や数直線に表す活動を多く取り入れる。また、立式の根拠を既習事項を用いて表す機会が多くもてるようにしたり、ペアやグループなどで自分の考えを伝え合う場をもたせたりする。 ・家庭学習やレベルアップタイムの時間などを活用し、基礎・基本の定着を図るとともに、学習が終了した単元の問題に立ち戻り、繰り返し取り組む課題を意図的に提示することで、習熟を図る。 ・時刻に関して日常生活の中で意識させたり、必要に応じて模型時計を使って動かしたりしながら時刻と時間に関する技能を身に付けられるよう支援していく。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の達成率は、83%であった。身の回りにある自然に関することから、問題を見いだす力は、教師とともに行うことで、少しずつ身に付いてきた。継続して行っていくことで、自分たちで問題をつくることができるようにしていきたい。 【思考・表現】 ・1学期の達成率は、81%であった。色・形・大きさ・数の4つの視点から植物や昆虫の観察をすることができる児童が増えてきたが、観察器具や実験器具などの使い方を習得している児童は少ない。 【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象の中から問題を見いだす力が高められるように、様々なものを比較し、考える取組を継続する。そのために教師の取組として、自然事象との出会いの場面を充実し、工夫を重ねていく。 ・観察器具や実験器具などの使用についての技能の向上を図るために、ICT機器を活用し、使用方法について紹介し、実際に自分が使うという活動を繰り返し行っていくことで、観察・実験の技能をより向上させていく。 ・全員が観察器具や実験器具などを操作できるよう、環境を整備していく。
体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対して、すすんで取り組む児童がたくさん見られる。一方で、自分のめあてをもてず、消極的な児童もあり、取り組みに差がみられる。 【関心・意欲・態度】 ・走ること、ボールを使った運動について、経験値による技能の個人差が大きい。運動を楽しみながら、基本的な動きや技能を身に付けていく必要がある。 【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の初めに、全単元の学習の流れを示し、自らのめあてをもち、それに向かって、児童が見通しをもって取り組めるようにしていく。 ・それぞれの単元の中で、必要な動きを取り入れた準備運動を行い、本時での活動に入りやすくする。 ・授業の前半や中盤などで、全体で技能のポイントをおさえる場面を作る。 ・ペアやトリオ、グループでの活動を意図的に取り入れ、友達と関わり合い、協力し合いながら、技能を向上できるようにしていく。